

## とやま型学校評価システム（令和8年度 清明中学校アクションプラン）

今年度は、**非認知能力の育成**を視点に、学習・生活・健康に関わる取組を相互に関連付けながら推進する。生徒が計画的に学習に取り組む**「自分を高める力」**、自己を客観的に捉え前向きに成長しようとする**「自分と向き合う力」**、そして他者と関わりながら適切に援助要請できる**「他者と関わる力」**を身に付けることで、主体的に学校生活を送る生徒の育成を目指す。

アクションプラン - 1 -	
重点項目	家庭での学習習慣の定着（知）
重点課題	（目指す生徒像）目標に向かって、粘り強く努力する生徒（知）に関連 <b>○計画的に課題に取り組む習慣を確立する。（自分を高める力）</b>
現状	昨年度は、教科の提出物について「『今週の課題』を期日を守って提出できている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。」という達成目標を設定し、主に家庭での学習習慣の定着を図ったところ、全校で85.6%と目標を達成していた。その一方で、計画的に課題を進める力については、まだ課題が残っている。 今年度は、さらに学習への取組方法や計画的な進め方についての支援を強化し、生徒自身が達成感や成就感を感じることができるように進める。
達成目標	<b>「『今週の課題』に計画的に取り組んでいる」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</b>
方策	①年度当初に、教科担任から家庭学習の取組方法について、授業時に説明したり、プリント等を配布したりして指導する。また、計画的に取り組むとはどういうことかを明確にし、指導する機会を設ける。 ②毎週火曜日に配布する『今週の課題』は適切な内容や量を考えて提示し、提出日が同じ日に集中しないように配慮する。さらに、授業内で早めに課題提出日や範囲に関する告知を行うことで、生徒自身が課題に取り組む時間を調整できるようにする。 ③代議員会を中心に、家庭学習の取り組み方や計画の立て方に関するポスター作成を行い、課題への取り組み方や期日を守ることを意識させる。 ④年3回、意識調査を行い、実態把握や方策の見直しを行う。

アクションプラン - 2 -	
重点項目	豊かな心の育成（徳）
重点課題	（目指す生徒像）思いやりがあり、協調性に富む生徒（徳）に関連 <b>○生徒の自己肯定感を高める。（自分と向き合う力）</b>
現状	昨年度行ったi-checkでは、「自分にはいいところがあると思う」の項目が全国平均に比べ、やや低い傾向がみられた。互いに認め合い、自己肯定感を高めることがよりよい人間関係の構築や学力向上にもつながると考える。 今年度は、各種行事や日常の授業の中で達成感や自己有用感をもたせるようなサイクルを積み重ねることで、自己肯定感を高め、自分も他者も大切にできる心の育成を進める。
達成目標	<b>「学校での日々の授業や活動の中で、自分が成長したと感ずることがある」「自分にはいいところがある」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</b>
方策	①日常の授業の中で、「考える→学びを言語化→振り返る」というサイクルを重ねる。 ②各種行事に目標を設定し、プロセスを重視した振り返りを行うことで、達成感や自己有用感をもたせる。また、SSTや構成的グループエンカウンターを実施し、相互理解と心理的安全性を高めることで、自分も他者も大切にできる人間関係を構築する。 ③校紀委員会で、学期末に「人権意識チェックカード」による自己評価を行い、言葉遣いや相手への態度等への人権意識を高める。 ④年3回、意識調査を行い、実態把握や方策の見直しを行う。

アクションプラン - 3 -	
重点項目	心身の健康に対する態度とスキルの向上（体）
重点課題	（目指す生徒像）目標心身共に健康で、たくましく生きる生徒（体）に関連 <b>○心配ごとや悩みに対する援助要請の態度やスキルを高める。（他者と関わる力）</b>
現状	<p>昨年度末の調査では、全学年で90%以上が「相談できる人がいる」と回答し、目標を大きく上回った。その中で、家族や友達への相談が80%以上、先生への相談が35%となった。「いない」生徒は3.3%おり、個別のフォロー体制の強化が引き続き必要である。また、SNS上の知人に相談する生徒が4%、AIに相談する生徒が17%いる。</p> <p>今年度は授業や講演会を通してSNSやSAIの適切な使い方を指導していくとともに、身近な大人や友達、教職員にも気持ちを伝えられるよう、対話的な支援をしていく。</p>
達成目標	<b>「心配ごとや悩み等があるとき、気軽に相談できる人がいる」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</b>
方策	<p>①教員が効果的な悩み等の相談の仕方を学び、面談に生かす。</p> <p>②各学年で、発達段階に応じた「お互いを大切にすること」に関する講演会を行う。</p> <p>③学校保健委員会で「SNSや生成AIの使い方」に関する講演会を開き、正しい知識を学ぶ機会を設ける。</p> <p>④年3回、意識調査を行い、実態把握や方策の見直しを行う。</p>
外部評価者	学校運営協議会委員
公開の方法	学校運営協議会委員、学校だより、ホームページ等